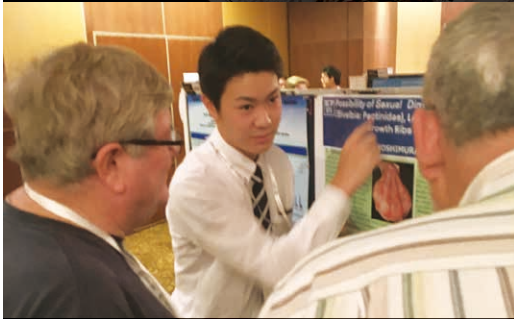


小学生の頃から貝類の収集を始め、福井県内の中学2年の時に富山県の地層で見つけたイタヤガイ科の貝化石が古生物学会の国際誌に新種と認定された。「多くの専門家と粘り強く議論し、結論に確信を持ちました」。慶應義塾高校時代には二枚貝の貝殻に表れる雌雄差に関する研究がマレーシアでの国際学会のポスター発表で最優秀賞を受賞。現在は“材料”としての貝殻の優位性に着目して研究を行っている。日吉キャンパスでの経済学部の授業に加え、週に2日、三田キャンパスでも学芸員資格取得に向けた授業を受けるなど幅広く勉学に励んでいる。「広く社会に目を向け、多様な学問分野の価値観を理解できるようになりたいと思っています」



高校時代の貝殻が並ぶ実験室風景



国際学会でのポスター説明の様子



共に研究を行う大学院生たちと

